# 私が関わった情報システム開発プロジェクト

## プロジェクトの特徴

損害保険会社Ａ社はインターネットでの自動車保険や傷害保険などを販売している。市場のがんや先進医療に対する補償のニーズにこたえるため、このたび医療保険に新たに商品を増やすことになった。その際に今後の市場のニーズに迅速に対応できるように、汎用機で構築された現行の医療保険向けシステムを、オープン系のＷｅｂシステムとして再構築することとなった。当医療保険再構築プロジェクトを情報システム開発会社であるＢ社が受注し、私がプロジェクトマネージャに任命された。

## プロジェクト目標達成に影響を及ぼすスコープの変更に至った原因

# スコープ変更について

ＰＭはスコープの変更による予算、納期、品質への影響を把握し、プロジェクト目標の達成に及ぼす影響を最小にするための対策などを検討し、プロジェクトの発注者を含む関係者と協議してスコープ変更の要否を決定する必要がある。

## プロジェクト目標の達成に与える影響

開発スコープが広がることによりコストが増加する。またクリティカルパス上の作業が増加する。開発範囲が広がる分、開発の難易度が上がることから品質低下が懸念された。

## スコープ変更の要否を決定するにいたる検討内容

以下を検討し、プロジェクト発注者であるＡ社経営層等を協議を行った。

1. 必要な機能や、必要となる運用条件の洗い出しとその対応のために必要となる作業及び工数の算出
2. 品質低下させることなく、上記対応をおこなうために必要となる期間と費用の産出

## 検討に関わった関係者とその協議内容

Ａ社の経営層と協議を実施した。開発スコープを広げるためには費用だけでなく、品質を守る上での最低限の開発期間の延長が必要な旨を認識させた上で、開発スコープの変更項目ごとに追加で必要となる期間を提示した。開発スコープの変更項目についてそれぞれの優先度を協議し、要求される開発期間内で実施すべき範囲を協議した。その結果、「」のみをスコープに追加することが決定し、開発期間を２０％延長することになった。

# スコープの変更を円滑に実施するための取り組み

## 成果物の範囲と作業の範囲の変更内容

最低限のｘｘ対応に必要な内容として、ｘｘｘ機能の追加が必要となった。この機能を実装するために必要なプログラムが成果物の範囲に加わり、これに伴う設計・実装・試験が作業の範囲として加わった。

## スコープを変更するうえでの留意点

並行して開発中のモジュールと、新規に追加する機能に必要なモジュールをできるだけ疎結合となるように設計し、影響を最小限にするとともに構成管理を徹底した。ｘｘ対応については別会社に依頼するとともにリリース時期を遅らせ、もともとの機能を開発しているチーム及び担当者には極力影響がでないように留意した。

以上